

2017年7月7日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、緩やかな拡大基調にある。

輸出は、緩やかに増加している。設備投資は、増加基調にある。個人消費は、雇用・所得環境が改善するもとで、総じてみれば緩やかに増加している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、減少している。以上の内外需要を反映して、生産は、増加基調にある。この間、企業の業況感は、引き続き改善している。

先行きの景気を巡るリスク要因としては、地政学的リスクを含む海外経済の動向や国際金融市場の動きが挙げられる。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、減少している。

輸出は、緩やかに増加している。

内訳をみると、半導体製造装置や建設用・鉱山用機械などが増加している。

設備投資は、増加基調にある。

個人消費は、雇用・所得環境が改善するもとで、総じてみれば緩やかに増加している。

百貨店販売額は、持ち直している。スーパー販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。家電販売額は、緩やかに増加している。乗用車販売は、新型車投入効果もあって増加している。旅行取扱額は、持ち直しつつある。外食売上高は、堅調に推移している。

住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、増加基調にある。

内訳をみると、自動車関連や建設用・鉱山用機械などが増加している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続けるもとで、雇用者数は増加しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%程度となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、法人預金などの増加を背景に、前年比4%程度のプラスで推移している。

貸出残高は、企業向けや住宅ローンの増加などを背景に、前年比2%程度のプラスで推移している。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上